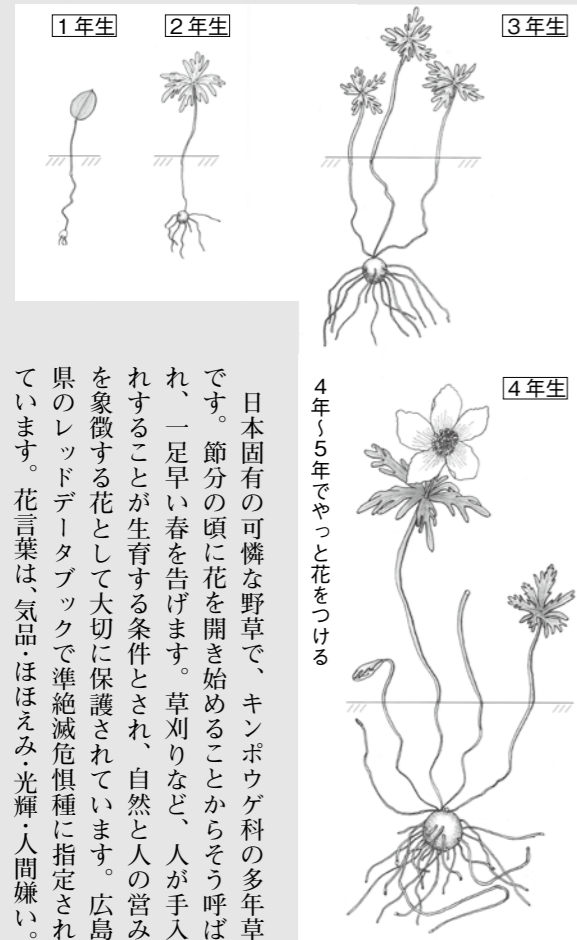


市内で保存活動が行われている山野草

■ セツブンソウ



日本固有の可憐な野草で、キンポウゲ科の多年草です。節分の頃に花を開き始めることからそう呼ばれ、一足早い春を告げます。草刈りなど、人が手入れすることが生育する条件とされ、自然と人の営みを象徴する花として大切に保護されています。広島県のレッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されています。花言葉は、気品・ほほえみ・光輝・人間嫌い。

■ ヒゴタイ



日当たりの良い草地に生育するキク科の多年草で、枝先に鮮やかな濃い青紫色の小花を球状に付けます。環境省レッドデータブックで絶滅危惧種に指定されており、比和町三河内地区の住民グループ「ヒゴタイの会」の皆さんが大切に守り育てています。

■ フクジュソウ



キンポウゲ科の多年草で、4センチほどの鮮やかな黄色い花を咲かせます。太陽の光によって花びらを開閉するのが特徴。東城町久代では準絶滅危惧種に指定されている陸奥福寿草の単独品種が自生しており、地元自治会を中心に大切に保護されています。

全国的に少なくなった花がどうして総領町に残っているのか。その理由は、総領町の気候風土にあります。節分草の多くは北向きの半陰地の

「里山」総領町を象徴する花

の関心が町内で高まり始めました。そして平成8年、節分草の自生地を守るべく、中谷さんを含めた6人の有志が「節分草保存会」を結成。ここから、総領町全体を巻き込む節分草物語がスタートしました。

山すそを好むこと、石灰岩安山岩といった弱アルカリ性の土質を好むこと。総領町にはこの条件を満たす場所が多くあったのです。そして、もう一つ大きな理由が「草を刈ってきた」ということでした。節分草が咲く条件の整った場所に人が暮らし、家の周辺や墓地の草を刈り続けてきた場所だけ自生地が残っているといわれ、自然と人との共生によって育まれる、まさに里山を象徴する花だと言えます。昭和62年12月には町天然記念物に指定されています。

総領の節分草は日本の宝
日本一の自生地を大切に



森林生態調査研究所 理事長
(NPO法人節分草保存会 顧問)

いとう・ゆきとし
伊藤之敏さん

節分草の自生地は全国にいくつかありますが、自生箇所が広範囲に点在しているところが多いなかで、総領町の自生地は同じ地域内で近くに密集しています。面積、密度ともに日本一と言っても過言ではありません。

これは総領町の気候風土が節分草の自生に適している、古くから潜在的に植生があったからにほかなりませんが、これだけの自生地が自然にできたわけではありません。

節分草は人の手で草を刈り、朝日を当ててやらなければ咲かない花ですので、保存会を中心とした地域の皆さんの地道な保護活動の賜物だと思います。

人と自然が共生して初めて花開く節分草は、研究的視点からもとても興味深い植物で、一言で言うと、すごい植物です。

庄原の宝であり、日本の宝とも呼べる節分草をこれからも大切に守り続けてほしいと思います。



特集
節分草に
染まる町

日本有数の節分草自生地を誇る総領町。
節分草はまちを象徴する花として地域の人に愛されてきました。
そのうち7カ所が2月20日から3月13日の間、一般公開され、まちは節分草一色に染まります。
今月は春を告げる節分草とその花を守り続けている人たちをご紹介します。



自生する節分草。

この全国的にも希少な花となった節分草が、総領町に自生することがわかり、この花へ
「30年前は、観光資源もなく

総領町は山間にあり耕地が少なところ。過疎の暮らしを楽しむまちづくり活動を進める「過疎を逆手に取る会」などで全国に知られていても、町を挙げての活動にはつながっていませんでした。

「30年前は、観光資源もなく
節分草は、関東北部から西日本にかけて多くの自生地がありました。農業の機械化や化学肥料の普及に伴い、下草を刈って牛の餌にしたり、堆肥を作ったりしなくなったことにより、節分草は徐々に姿を消していき、絶滅の危機に瀕するまでになってしまいました。

陰地に光る小さな花

種蒔き

地域の宝は
足元に

CHAPTER 1



自生地の草を刈る保存会の皆さん。

膨らみ

地域に広がる節分草の輪

CHAPTER 3

にぎわい創出に地域の力も加わりました。公開期間を盛り上げようと、自治会や住民グループがさまざまな事業に取り組み始めました。

案内所がある下領家自治会では、地元として節分草を盛り上げようと、平成14年から自生地へつながる使われなくなっていた道をハイキングコースとして整備。コース上にお茶席や、ぜんざいコーナーを設け、観光客から喜ばれました。平成17年から土日限定で販売を始めた地元産の手打ちそばは特に好評です。植え付けから販売まで全て自治会で行い、蕎麦のほか薬味となる大根やねぎも作り、つゆも一から作る



自生地公開期間中に下領家自治会が手打ちそばを実演販売。



案内所となる道の駅リストアステーションで見学者に節分草を説明。

広がるもてなしの心

自治会長は「何らかの力になりたいという思いでいました。そばを楽しむにきて来てくださるので、私たちも毎回同じ味が出るように努力しています。少しでも節分草の盛り上げに貢献できればうれい」と話します。

節分草でつながり合う

自治会長の稲迫健二さんは「何らかの力になりたいという思いでいました。そばを楽しむにきて来てくださるので、私たちも毎回同じ味が出るように努力しています。少しでも節分草の盛り上げに貢献できればうれい」と話します。

自治会長の稲迫健二さんは「何らかの力になりたいという思いでいました。そばを楽しむにきて来てくださるので、私たちも毎回同じ味が出るように努力しています。少しでも節分草の盛り上げに貢献できればうれい」と話します。

「到着時間が遅れたり、キャンセルが入ったりすると、準備の段取りや食数の調整にかなりの労力を費やすので、あと何年できるか不安があります」とメンバーの奥より子さんも課題を挙げます。

それでも続けられる理由がある



上市自治会の女性グループの皆さん。左から今田浩江さん、澤由妙さん、奥より子子さん、伊藤和家さん、國近アキ子さん、田邊潤子さん。



観光客に大人気の「もてなし御膳」盛り付けの16品は全て手作りで、団体に限り、予約して食べられる。



普及啓発用にプランター200鉢で節分草を栽培。

芽吹き

地域に芽生えた意識

CHAPTER 2

栽培に成功し自生地公開へ

保存会の会員それぞれが自所有の土地に節分草の自生地をもっていたこともあり、節分草の生態を学ぶ中で、弱っていた自生地の草刈りのほか、自生地公開へ向け盗掘を見越した節分草の種子の採取や栽培に取りかかりました。資金は会員が持ち寄り、足りないところは、自前で作成した「節分草絵はがき」を販売して、売り上げを充てました。

翌年には、灰塚ダムによって水没する地域に自生する節分草を、田総の里スポーツ公園や道の駅リストアステーション対岸のアースワーク河川公園に移植するなど、手探りながらも着実に自生地の保

護を進めていきました。期待した節分草の栽培は1年目に失敗するも、専門家の技術支援も受け翌年には成功。これにより自生地公開への機運が一気に高まりました。そして平成9年2月、自生地の所有者の協力を得られた8カ所を公開地に設定し、日曜日限定での一般公開がスタートしました。

観光客増で地域活性化を

自生地を公開すると、花好きの方を中心に注目されはじめました。報道機関にも取り上げられるようになり、少しずつ見学者が増加。保存会の活動も軌道に乗り始める。当初の予想を上回る見学者が訪れるようになったため、平日にも公開を始めました。

平成12年には「花守り」と呼ばれるボランティアガイドを養成。花を見て帰ってもらっただけでは地域に何も残らないと、この年にはフリーマーケットも実施し、新たなにぎわいを見せ始めました。

地域活性化も大きな目的としていた保存会は、節分草の観光資源としての可能性を模

索。山野草ブームなどの追い風の機を逃すまいと、さまざまなPR活動を展開しました。四国や九州、関西のバス会社へ足を運び、節分草を扱うツアーを組んでくれるよう頼んで回りました。こうした努力により期間中、最も多いときで町の人口の約15倍、3万人を超える人が総領町を訪れるようになったのです。

反響の裏で直面した課題

観光客の増加は町に活気をもたらしましたが、一方で新たな問題が出てきました。自生地の周辺で土地が荒れたり、水路や石垣などが壊れたりといったことが起こり始めたのです。家の前を多くの

人が通るため、洗濯物が干せない、家の中を勝手に見られる、石を田んぼに落とされる、といった苦情も相次ぎ、ついには公開をやめてほしいという声も上がったといいます。こうした声を受け保存会は、この問題を解消すべく奔走。現場に赴き壊れた箇所の修繕や周辺整備を行うなど、節分草の価値、観光資源としての魅力を一貫して伝え続けました。そして、その熱い思いは伝わりました。

「地主の方とお互いに努力し合い、理解してもらえようになった。今ではお客さんと談笑する姿も見られるようになった。このことで、逆に地域の結束が強まった」と中谷さんは話します。

花守りボランティア(節分草保存会会員) 山坂健治さん

節分草の魅力 里山の大切さを伝えます

ボランティアガイドは現在20人ほどで、ローテーションを組んでガイドを行っています。基本的には道の駅の案内所で保存会が育てた節分草で説明し、その日の開花状況を見て自生地を紹介しています。バスツアーでお越しになる団体のお客さまには、一人100円をガイド料としていただく代わりに、バスへ添乗し現地案内します。説明の際には、節分草の希少価値だけでなく、総領町の環境の良さ、里山の大切さも伝えています。

下領家自治会 会長 稲迫健二さん

節分草をきっかけに 田舎暮らしを楽しんでいます

せっかく節分草があるのに、地元の住民として盛り上げないわけにはいきません。そうした思いで、ハイキングコースの整備や手打ちそばの販売などを行ってきました。自治会の皆さんのご協力、毎年多くのお客さんに喜んでいただいています。節分草がきっかけで、皆さんと一緒に生産活動をしたり、収穫を味わったりと、みんなで田舎暮らしを楽しめるようになりました。ことはいいそばができましたので、ぜひ一度食べにお越しください。

ります。それは普段集まる機会が少ないメンバーが、この時季になると顔を合わせられること。おしゃべりしながら楽しく準備し、一人で過ごすことのないメンバーの中には、それを「損得ではなく、地域を盛り上げたい。続けられる限り頑張っていきたい」と、シーズン到来に気持ちを高めています。



NPO法人節分草保存会 理事長
なかたに・あきお
中谷昭夫さん

節分草は小さくかわいらしい花ですが、雪が降っても元気に芽を出すたくましい花なんです。この花のように、たくましく、元気な地域にしていきたい。総領町の節分草をぜひ見にお越しください。

■ 節分草自生地公開 2/20日(土)～3/13日(日)
インフォメーション 道の駅リストア・ステーション「光のドーム」

【節分草自生地公開期間中イベント】

- 写真講座 2/19(金) 10時30分～12時
節分草を中心に、山野草の撮影技術が学べます。
参加費 500円
講師 金山一宏さん
※カメラを持参してください。
- 絵手紙教室 2/21日(日)、3/6(日) 10時30分～15時
※時間内随時参加可。
節分草などを題材に、絵手紙の書き方が学べます。
参加費 500円
講師 横 恵さん

- 山野草寄せ植え教室 2/21(日)、28(日) 10時30分～、11時30分～、13時30分～ (各1時間)
山野草を使用して寄せ植えを行い、小さな自然を再現します。
定員 各時間帯10人 (要予約)
参加費 1,500円 (素材・鉢などの材料費含む)
講師 長井 稔さん

- 節分草祭 3/13(日) 10時～15時
■ノルディックウォーキング同時開催 10時スタート
日本ノルディックウォーキング協会公認インストラクターと一緒に、「節分草自生地」を巡ります。※ボールの貸し出し可。(1セット100円)

- 山野草写真・絵手紙コンテスト作品募集
期間中、総領町に咲く節分草や春の山野草を題材として作品を募集します。各優秀作品には、賞状と副賞を贈ります。ふるってご応募ください。

期間中、節分草の開花状況や自生地への行き方を案内するボランティアガイドを募集しています。ガイドを通して、総領町の山野草と触れ合ってみませんか。

【申し込み・問い合わせ】
里山を楽しむ町イベント実行委員会事務局
(総領自治振興センター内)
☎0824-88-3067

を描くところまでほとんど子どもたちで行い、みんなが頑張った完成させました。この取り組みによって節分草のことがより好きになったように、郷土を愛する気持ちにながっていくと思います」と話しています。

守っていくか、そのためにそこに暮らす人は何をしなければいいのか、みんなに考えてもらう内容に、観覧した保護者や地域の方からは「とにかく感動した。深い物語で子どもたちの演技も素晴らしい、考えさせられた。子どもたちの思いが伝わってきた」と大絶賛。担任の角田真紀教諭からは「地域のことを知らずして地域のことを好きにはなれない。

こうした取り組みを通じて郷土愛が育つのだと思います。今後も続けていきたいです」との意気込みを聞きました。

あとがき
総領町は知らなくても、節分草と聞けば、あの町かと言ってもらえるほど、総領町の代名詞になりました。それは、

旧総領町時代から現在まで、行政と協働してきたということ。そして、節分草保存会の皆さんの努力と、地域住民の皆さんの理解と協力があってこそ成し得たことです。

こうした取り組みはどこにでもあるように思われがちですが、30年以上も継続して成功している事例は多くありませんし、それまで絶滅危惧種だった節分草が、総領の取り

組みによってマスコミ報道が増えたことで各地で発見が相次ぎ、準絶滅危惧種に格下げになったというのも、この取り組みのすごさを示しています。

私たちの住む庄原市は山野草の宝庫です。私たちの足元にはまだまだ地域の宝が眠っていると思います。

皆さんの地域で新たな花が咲くことを期待して！



右:総領小4年生が毎年行っている節分草ガイドの様子。
左上:道の駅リストア・ステーションで紙芝居を使って節分草を紹介。
左下:昨年11月の学習発表会では節分草をテーマに発表。

花咲く

地域の宝を
後世に

CHAPTER 4

節分草を学ぶ子どもたち

総領の子どもたちにとって節分草は身近な存在。小さなころから節分草に触れ、学校でも節分草を題材にした授業や取り組みが行われてい

ます。地域の宝である節分草をより多くの人に知ってもらいたいと、総領小学校では毎年4年生が、自生地公開期間中にボランティアガイドを行っています。

人に伝えるには、まずは自分たちが知ることが大切と、節分草に関する資料を集めたり、保存会の方を招いたりして学習します。その中から観光客に伝えたいことを選び、分かりやすく絵を描いたり、クイズを取り入れたりするなど工夫しながら、練習を重ね

準備を進めます。ガイド本番では緊張しながらも、自生地を訪れた人に積極的に声をかけ、節分草の魅力を伝えていきます。

13年間講師を務めている山坂健治さんは「子どもたちが節分草を大切に思ってくれている気持ちうれしいです。教えた子どもたちが中学生になり期間中も手伝いに来てくれます。子どもたちが私たちの後に続いていってくれればいいですね」と期待を寄せます。

節分草で育まれる郷土愛

昨年度にはガイドに加えての取り組みとして、備北観光ネットワーク協議会主催の「地域の観光資源の魅力を伝える紙芝居づくり」に参加し、節分草を題材に紙芝居を作成。当時の4年生11人が図工や総合の時間を利用して、約5カ月かけて13ページにわたる紙芝居を完成させました。節分草を妖精に例え、節分草の特徴や保存会の取り組みを紹介し、節分草の大切さを伝えました。担任した戸田勇氣教諭は「物語を考えると

左から、学習発表会で発表した総領小4年の名切優稀くん、松井駿くん、紙芝居に取り組んだ5年の大森七海さん、田邊果歩さん、竹下葵さん

彫刻刀を使って作る版画絵は、すごく難しかったです。総領にはもともと節分草が多く咲いていると思っていたけど、いろいろな人の力があるから咲いているのだと感じました。

紙芝居を見ている人が分かるように説明しないといけないので大変でした。節分草は今も準絶滅危惧種なので、いつまでも残ってほしいです。

紙芝居を作ったときは大変だったけど、地域の人の前で読んだときには達成感がありました。自分たちが大人になっても、ずっと咲いてほしいです。

発表会では、見ている人に節分草の大切さを知ってもらい、もっと好きになってほしいという思いで取り組みました。自分でも考えていけないといけないと思います。

節分草が咲いているのは当たり前のことではないので、みんなに大切にもらいたいです。節分草のことが良くなるようになったので、取り組んでよかったです。

